



2022年11月10日

日本鉄道労働組合連合会

自動車連絡会第30回総会を開催

バス産業の反転攻勢に向け、取り組みの強化を確認！

JR連合自動車連絡会は10月12日、広島市「JR西労組広島地本会議室」において第30回総会を開催し、全国からJRバス産業で働く仲間が集まり、バス産業の反転攻勢に向けた取り組みについて議論を交わした。

冒頭、挨拶に立った矢田尊弘代表幹事（JR西労組西日本JRバス地本執行委員長）は、「バス産業における賃金や労働時間等は依然として他産業と比べ低位にある。先日、改善基準告示の見直し案が取りまとめられたが、必ずしも満足できる内容ではなく、さらなる改善を図りたい。あわせて、昨今の燃料費上昇がバス事業者には大きな負担となっていることから、負担軽減や税制支援等を求めていきたい」と挨拶した。



全国から集まった出席者に挨拶する矢田代表幹事

また、JR連合からは荻山市朗会長、政所大祐事務局長、森安祐貴産業政策局長が出席。代表して荻山会長はJR連合の結成から30年間の取り組みに感謝の意を述べるとともに、「『全国旅行支援』による需要回復に期待する一方で、人材の確保や燃料費上昇への対応、中長期的な支援策の実現など、諸課題の解決に取り組もう」と呼びかけた。加えて、「21世紀の鉄道を考える議員フォーラム」に所属する森屋隆参議院議員からオンラインで激励の挨拶を受けた。



森屋議員から激励を受ける

総会では、バス産業の反転攻勢に向けた課題として、安全の確立、各種政策課題の解決、労働条件の改善、組織の強化について、向こう一年間の方針を決定した。



コロナ禍における取り組みについて情報交換

また、同日には中国ジェイアールバス広島エキキタ支店を視察し、広島駅に近い立地を活かした回送コストの削減や、プロスポーツ選手輸送等の新たな営業施策など、コロナ禍によるダメージからの回復に向けた取り組み等について情報交換を行った。



選手の体格にあわせシート間隔を拡大した車両

JR連合自動車連絡会は、魅力あるバス産業の実現やJRバス労働者の処遇改善に向け、全国の仲間とともに一丸となって取り組んでいく。